

2025年度

春 Semester 入学 I 期 試験問題

《 修士課程 第II領域 》

専 門 科 目

— 注 意 事 項 —

1. 問題冊子は指示があるまで開かないこと。
2. 受験番号と氏名を問題冊子および解答用紙のそれぞれに必ず記入すること。
3. 解答は横書きのこと。
4. 解答用紙の余白にはなにも書かないこと。
5. 下書きは問題冊子の余白を使用すること。
6. 解答用紙は一組しか配付しない。
7. 試験終了後、問題冊子および解答用紙は持ち帰らないこと。

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

常磐大学大学院 人間科学研究科

問1. 次の問に答えなさい。(配点40点)

1977年に精神科医エンゲル, G. Lは, 人の健康状態や疾患を「生物」, 「心理」, 「社会」という3つの側面から包括的に理解するための「生物・心理・社会モデル」を提案した。この健康に関する包括的理論モデルの内容を踏まえて, 緩和ケアで求められるトータルペインと心理士の働きについて, 500字前後で述べなさい。ただし, 500字を超過しても構わない。

問2. 次の(1)から(4)のうち、2問選択して解答しなさい。(配点 各30点)

(1) 精神科に通院中のクライアントの状態を把握するために、医療分野で働く心理士は医師、看護師と連携するために、神経伝達物質の役割や向精神薬の効能や作用機序、副作用の知識を持っていなければならない。

次のAからJの内容に対応するものを選択項目の1から11の中から1つ選びなさい。同じ番号を複数回選んでもよい。解答用紙に記入する際には、AからJそれぞれの記号に続けて、選択項目の番号を記載すること。

- A 副作用を防ぐために、血液検査が義務づけられている。
- B 錐体外路症状 (EPS) (パーキンソン症状, ジストニア (頭頸部, 眼球上転 ETC.), ジスキネジア, アカシジア など) の副作用がでる。
- C 服用し始めには、胸やけ、嘔気、下痢などの副作用がでるときがある。
- D 治療有効域が狭いため、血中濃度の測定を要する。
- E 筋弛緩作用やふらつきによる転倒症状がでる場合や、呼吸抑制が起きる場合がある。
- F 抗てんかん薬であるが、双極性障害の薬としても使われる。
- G 高プロラクチン血症プロラクチン分泌 (月経不順, 乳汁分泌, 骨粗鬆症など) の副作用がある。
- H 不安症やうつ病によく使われる薬剤であるが、せん妄がでている人に、この薬剤を使うと、症状が酷くなる。
- I この神経伝達物質が強く働くと、口渇や尿が出にくいなどの抗コリン作用の副作用がある。
- J 運動神経および副交感神経で働く神経伝達物質

選択項目

1. オランザピン	2. 三環系抗うつ薬	3. 炭酸リチウム
4. 定型向精神薬	5. SSRI	6. ベンゾジアゼピン系抗不安薬
7. バルプロ酸ナトリウム		8. アセチルコリン
9. クロザピン	10. インターフェロン	11. ノルアドレナリン

- (2) 自律訓練法の目的, 実施方法, どのような領域, 場面で利用されているか (適応範囲), 実施上の注意点について, 述べなさい。(200 字から 300 字程度)
- (3) 心理学や精神保健の文脈における「エンパワーメント」について説明しなさい。
(200 字から 300 字程度)
- (4) 「ブリーフィング」と「デブリーフィング」について, 心理学の実験や調査を例に挙げて説明しなさい。(200 字から 300 字程度)